



たまだれ
No.74

玉垂

Tamadale



特集

田遊祭・田遊神事の斎行

春に祈る 節分祭の斎行

特別寄稿文

鎮守の杜という、いのちの装置～プラネタリーヘルスと日本の自然観～

天籟株式会社代表取締役医師
プラネタリーヘルス・イニシアティブ代表理事 桐村里紗

トピックス

明神通り振興会主催!! 新緑ライトアップ 特別イベントのご案内

第14回 神社検定受検のススメ

シラチャ小国神社創建プロジェクトドキュメンタリームービーのご紹介

遠江国一宮

小國神社のご由緒

創

始は神代と伝えられ、延宝八年（一六八〇）の社記によると、人皇二十九代欽明天皇の御代十六年（五五五）二月十八日に本宮山峯（本宮山）に御神霊が顕れた後、勅使が遣わされ、山麓約六キロの現在地に社殿を造営し、正一位の神階を授けられました。それ以来、年々御神前に幣帛を捧げられ文武天皇大宝元年（七〇一）春十八日に勅使奉幣の際、特に十二段舞楽を奉奏されました。延喜七年（九〇七）延喜式内社に列せられ、中世には徳川家康をはじめとする武將など、朝野の崇敬が極めて篤く近世に至っております。

元龜三年（一五七二）の戦では、家康公は御神霊を別所に遷し、願文と三条小鍛冶宗近作の太刀を奉り戦勝を祈願した後、社殿を全て焼失しました。

天正三年（一五七五）に勝利を得た家康公は、御本殿の造営、拝殿・楼門を再建され、更に社領五九〇石の朱印を奉り、以降世々の徳川將軍家より、社殿の改造・修復料を寄進されました。

明治六年六月十三日に国幣小社に列せられ、明治十五年三月に再度の火災により御本殿以下建造物など消失しましたが、明治十九年に復興され現在に至っております。平成十七年には御鎮座一四五〇年祭が斎行され、『遠江国の一宮さま』として崇敬され広く親しまれております。

また、平成十五年九月十四日には、秋篠宮文仁親王殿下同妃紀子殿下のご親拝を賜り、平成十八年十一月八日には、神宮祭主池田厚子様のご参拝、平成二十九年四月二十九日には、高円宮妃久子殿下のご親拝を賜りました。

令和六年十月二十五日には、初の海外分祠シラチャ小國神社がタイ王国にご鎮座となりました。

小國神社と

徳川家康公の知られざる歴史・秘話も…是非ご覧ください



小國神社のはじまりから
現代までの壮大な物語

小國神社ものがたり
ご祭神とともに



公式ウェブサイト特設ページで
スペシャルムービー公開中

小國神社ものがたり

検索



日本の神様の物語は
『日本の良き国柄』、『伝統』、『文化』を
今に伝えています。

この物語は、静岡市在住の絵本・造形作家のたたらなおきさんよりご奉納いただいた全長約七メートルの絵物語をもとに作成したアニメーションです。神代より語り継がれてきたお話には、

日本人の「豊かで優しい和の心」の原点が描かれています。神々の営みの中から「正しい道筋をたてて生きてゆくことの大切さ」や、「思いやりのこころ」を学びましょう。



一の鳥居前のエドヒガン群の枝垂れ桜（3月25日撮影）

『昭和一〇〇年』に思う

先ずもって、聖寿の万歳、ご皇室の弥栄を壽ぎ奉り、国の隆昌をお祈り申し上げます。

去る三月五日、自民党の小林鷹之政調会長は記者会見で、安定的な皇位継承に向けた皇室典範の改正について、「特別国会での改正を目指す」と述べられ、同月十八日、正副議長が四月以降に全体会議を再開する方針を示されました。

既に、令和三年には「天皇の退位等に関する皇室典範特例法に対する附帯決議」に関する報告が提出され、大枠は示されていますので、ご皇室の長い伝統と皇位の尊厳を護るべく肅々と進めて頂きたいと存じます。

その際、福沢諭吉が「帝室論」の中で、「帝室は政治社外のものなり」と述べているように、政争の具や国論を二分したりすることがないよう、私たち国民は努めて、静謐な環境を維持しなくてはなりません。

一方で、本年は、昭和天皇が御即位され、「昭和の御代」が開かれてより満一〇〇年の佳節を迎えます。昭和天皇のご聖徳を仰ぎ見る時、二つの御製に心が震えます。

『身はいかにもなるともいくさどめけりただたふれゆく民をおもひて』

『国がらをただ守らんといばら道すすみゆくともいくさとめけり』

この二首は、終戦直前の昭和二十年の御製といわれています。先の大戦での敗戦を受け、身を挺して国民と国柄を護り、戦後復興の道を歩む国民の心を慰め、励まし続けた昭和天皇のご覚悟と祈りに、多くの国民が勇気づけられました。

この尊貴な大御心が平成の大御代、令和の大御代と貫かれていることに改めて思いを致し、万世一系（永久に一つの皇統が続くこと）の天皇陛下を戴く国柄を、国民ひとりひとりが大切にすることが肝要に存じます。

他方、現在、我が国を取り巻く状況は更に厳しさを増しています。中東、米国、イスラエル、ロシアなどの紛争や、覇権主義を隠すことのない中国共産党の軍備拡大や北朝鮮の核ミサイルの脅威は申すまでもなく、とりわけて、情報戦、経済戦、サイバー戦など多様な手段を組み合わせた「ハイブリッド戦」は、このような複雑な国際情勢において、「平時」と「有事」の区別が曖昧になる時に仕掛けられるものです。いづれにしても、自分の国は自分達で守る覚悟と対策は、安全保障上の喫緊の課題であると存じます。

職員一同、神慮を畏み、国の安寧と世界の平和を祈り、社務に精進して参ります。各位のご壮健を心よりお祈り申し上げます。

令和八年三月二十日

古来「遊び」は「神事」だった

令和八年一月三日田遊祭・田遊神事の斎行

田遊祭・田遊神事とは？

小國神社の田遊神事の創始は鎌倉時代中期と伝えられています。当社が所蔵している最も古い記録、延宝八年（西暦一六八九年）の記録には、旧暦正月三日の夜、ご神前で執り行われたことが記されています。

「田遊神事」とは、年の始めに豊作を祈願して『田作り』から『刈り入れ』までの稲作過程を模倣的に演じ、田の神を活気づけ秋の豊かな稔りを祈る神事芸能です。十二段の演目で構成され、旧社家により奉仕されます。小國神社の田遊神事の大きな特徴は、古い形を保ったまま今日まで伝承されている点です。言霊の霊力による予祝賛美（よしゆくさんび）を中心とした祈りが捧げられます。

昭和三十五年四月十五日に「静岡県無形文化財」に指定され、平成十九年三月七日に文化庁より「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択され、現在にいたります。

「遊び」の語義と信仰とその意義

現代の私たちにとって「遊び」が「神事」のことであるとすんなり受け止めにくいかもしれません。

「遊び」の用例を辿ると、「神楽」（かぐら）が神々をもてなし、人と一体となる神事として「神遊び」（かみあそび）と称され、極めて古い時代から行われてきたことがわかります。

また、「山遊び」「海遊び」あるいは「磯遊び」という言葉も本来は、現代のレジャー的な感覚ではありませんでした。山や海に「遊び」に行くことは、長い冬を終えて春となり「狩り」や「漁」を行うことでした。『常陸国風土記』に記載されている地名起源説話にはこのようなものがあります。

―古老のいへらく、倭武の天皇、東の垂を巡りまさむとして 種々の珍しき味ひ、

今日の遊は朕と家后と各、



▲一番 素鉦

田遊びで使われる諸具

大太鼓、鼓、小桶・扇子・柳・種
籾・牛王・柳の枝を使います。

大太鼓は田に見立てられ、柳の葉は肥草をあらわします。牛王は当社ではゴオウでなくギウオウと呼びならわしています。

牛王は、白紙を五角形に折り、一二センチほどの青竹に挟み、麻紐を結びつけます。麻紐は蝶結びにして牛の耳をかたどります。これに「卯・一宮牛王」の文字を刷ります。牛王は牛を形象化したものですが一方で、神さまの宿る依り代としての幣束の意味をもつといわれています。他に、これを模した二〇センチほどの小形の牛王があり、演目の最後に縁起物して福餅とともに撒きます。

柳は素鉦と鳥追いの時に用いられ、鉦や鳥追い棒をあらわします。小國神社では、追難祭や節分祭にも柳の枝が使われます。



牛王札▲

七番 種時ぎ▲

野と海とに就きて、 同に祥福を争へり

●奉納演目●

- 一、素 鍬（しろくわ）
- 二、蛙 塗 り（あぜぬり）
- 三、代 掻 き 牛（しろかきうし）
- 四、苗 草 寄 せ（なえくさよせ）
- 五、苗 草 蒔 き（なえくさまき）
- 六、苗 草 踏 み（なえくさふみ）
- 七、種 蒔 き（たねまき）
- 八、祝 詞（のりと）
- 九、苗 讃 め（なえほめ）
- 十、世などよう（よなどよう）
- 十一、鳥 追 い（とりおい）
- 十二、歌おろし（うたおろし）

▲三番 代かき牛



遊漁（うおあそび）の利多し 今日（こんにち）の遊（あそび）は朕（われ）と家后（かこう）と各（おのづから） 野（の）と海（うみ）とに就きて、同（とも）に祥福（さちふく）を争（あら）へり――

野（の）の狩（かり）も海（うみ）の漁（り）も「今日の遊（あそび）」と称（な）していることから、私たちの祖先（せんぞ）は「遊び」を通じて、神々（かみ）が運（はこ）ぶ季節（きせつ）の恵（めぐみ）を身体（からだ）に取り込み、自らの靈魂（たましい）に新たな活力（きつりき）をいただけてきました。つまり、「遊び」の語義（ごぎ）には、私たち日本人（にほんじん）の信仰（しんぎょう）の根源（こんげん）があらわれているといえます。

自然（しぜん）と共に生き、その恩恵（おんけい）を受け、そこに神々（かみ）を見いだしてきた私たちの祖先（せんぞ）は、「遊び」を大切な生活（しやうか）の節目（せまぶし）として強く意識（いしき）し、農業（のうぎょう）や漁業（りやうぎょう）を開始（かいし）するにあたり、一層（いっそう）の豊かな稔（み）りや恵（めぐみ）を祈（いの）る神聖（しんせい）な日（ひ）として位置（いち）づけました。

このように「遊び」の語義（ごぎ）には、神々（かみ）への「感謝（かんしゃ）」と真摯（しんし）な「祈（いの）り」が込（こ）められています。

自然（しぜん）の中で、天地（てんち）の恩恵（おんけい）をうけ、神々（かみ）と共に生きていくことは、我が国（わがくに）の麗（うつく）しい精神文化（しんせいぶんか）です。

田遊神事ゝ伝統文化のこれから

当社の田遊祭、田遊神事は「無形の民俗文化財」として指定されています。この「無形」であるということには、大きな意義（いぎ）があります。いわゆる、国宝などに代表（だいひょう）される「有形」の文化財（ぶんかざい）などは震災（さいな）などがあれば全て無（な）くなってしまふことがほとんどです。

しかしながら、「無形」のものはそうではありません。神社（じんじゃ）と神々（かみ）を敬（うや）め地域（ちいき）の人々（ひと）の連綿（れんめん）とした努力（どりょく）による精神（しんせい）の継承（けいしょう）がある限り、ゼロになることはありません。たとえ、大規模（だいぎぼ）な災害（さいがい）などで途切（とぎ）れたことがあつたとしても、何度（なんど）でも復活（ふくたつ）し、続けていくことが可能です。これは本（ほん）当（とう）に素晴らしい文化（ぶんか）であるとともに我が国（わがくに）の大きな特徴（とくちょう）であり、強（こ）みともいえます。

昨（きの）年の大阪（おさか）・関西（かんさい）万博（ばんぱく）の開催（かいさい）などを経て、日本（にっぽん）を訪（た）れる外国人（がいこくじん）観光客（かんこうきゃく）数は依然（いぜん）として高い水準（すい準）を保（た）ち、その関（かん）心（しん）は都市部（としぶ）から地方（ちほう）へと広（ひろ）がりを見せています。また近年（きんねん）では、日本（にっぽん）各地（こくち）で連綿（れんめん）と受け継（つぎ）がれる伝統（でんとう）的な祭礼（まつり）や神事（しんじ）、地域文化（ちいきぶんか）に直接（じきく）触（ふ）れ、その奥（おく）にある歴史（れきし）を知（し）ろうとする体験型（たいけんがた）観光（かんこう）への意欲（いよく）が世界的（せかいてき）に高（たか）まっています。

このような時代背景（じだいはいけい）のなか、私たちは祖先（せんぞ）が神々（かみ）の恵（めぐみ）に感謝（かんしゃ）し、護（まも）り伝えてきた貴重な神事祭礼文化（しんじまつりぶんか）を改めて見つめ直し、諸外国（しよがいこく）の人々（ひと）にも、それら（それら）が内包（ないほう）する麗（うつく）しい精神性（しんせいせい）と我が国（わがくに）の奥（おく）深い魅力（みんりき）を正（ただ）しく伝えていくことが、今後（きんご）さらに求められていくでしょう。



▲神事奉納後の「福餅撒き」



▲八番 祝詞



▲五番 苗草蒔き



特集

春に祈る 節分祭の斎行

春に祈る 節分祭の斎行

令和八年二月三日(火)、節分祭を執り行いました。色とりどりの鮮やかな装束に身を包んだ年男役、年女役七十六名の皆様にご奉仕いただき、賑わいの一日となりました。

本年の特別奉仕者として、女優の天玲美音様、袋井市出身の歌手・松原健之様、元大相撲大関の把瑠都様、ラジオパーソナリティのDJ RONI様にご奉仕いただきました。特別奉仕者が舞殿に登場すると、大きな歓声と拍手が沸き起こり、太鼓の音とともに豆撒きが始まりました。福豆やお菓子が撒かれるたび、参拝者たちは手を伸ばし、笑顔で福を受け取られていました。

『節分』とは？

節分は、立春、立夏、立秋、立冬の前日を指し、本来は年四回あります。現在では特に、立春の前日を指す場合が多くなりました。これは、旧暦を使用していた時代には節分が年初めの前日、つまり大晦日とされ、冬から春に移る時節であることから、特別な意味を持つようになりました。

節分の行事は、本来宮中で季節の変わり目に行なわれた年中行事で、これに大陸から伝わった「追儼・鬼遣らい」の神事が加わり、平安時代から行なわれてきました。時代が下ると次第に民間に伝わり現在に至ります。節分当日の夕暮れ、ヒイラギやイワシの頭を家の入り口などに挿しておいたり、豆撒きをしたりするようになりました。このようにしておく、鬼（流行病や災難をもたらす邪鬼）がヒイラギの葉のトゲに刺さり、イワシの悪臭に驚き逃げていくと考えられていました。これは、季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると考えられており、それらが家に侵入しないように追い払うためです。

また、豆を撒く際のかけ声は通常「鬼は外、福は内」ですが地域や神社によって様々です。鬼を祭神または神の使いとしている神社などは「鬼は外」ではなく「鬼は内」としているところもあります。

私たちに身近な節分行事を始めとする伝統行事は、神々を敬う心と四季折々の自然や風土によって育まれてきました。そこには祖先の感性や暮らしの知恵が込められています。

“伝統行事”を楽しむ





▲ エストニア国からメディアの取材も訪れました

▶ 豊栄舞奉奏



▶ 特別奉仕者 把瑠都様(右上)、D・D・D様(右下)
天玲美音様(左上)、松原健之様(左下)

毎日の生活に“豊かさ”と“潤い”を

▶ 金幣拝授



▶ 鳴弦式
邪気(鬼)を鎮めます



▶ 天玲美音様からの福袋と
松原健之様からのCD
音源をご神前に奉納いた
だきました



▶ 厄災を追い払う
追儼神事



豆撒き神事 ～なぜ豆を撒くのでしょうか～

豆を撒く意味は、豆には穀物の穀霊が宿り生命の源の象徴と考えられ、鬼に豆をぶつけることで邪気を祓い、一年の無病息災を願う意味合いもあります。
家庭においては、夕方家のドアや窓を開けて家の主人が豆を撒き家族の幸せを祈ります。豆を自分の年齢より一つ多く食べると、身体が丈夫になり、風邪をひかないとの言い伝えもあります。

幸せを祈るころ

立春が過ぎると、まだまだ冷たい風が空を渡りますが、陽射しは春めいてきます。山野の草木は、静かにその芽を育みます。農耕の知らせを運ぶ、山桜などの開花はこの頃を過ぎると一気に進みます。このような神々が運ぶ悠久の天地の流れにあわせて、人間もまた春を迎える支度に取り掛かります。

なぜ、日本人は数々の伝統行事を大切に語り伝えてきたのでしょうか。それは、季節の恵みへの『感謝』と、日々無事に生活できることへの『喜び』を確認する機会として位置付けてきたからに違いありません。

私たちは、伝統行事を楽しみながら生活の中に取り入れ、祖先のところに触れ、日々の生活に『豊かさ』と『潤い』を与えてゆきたいものです。





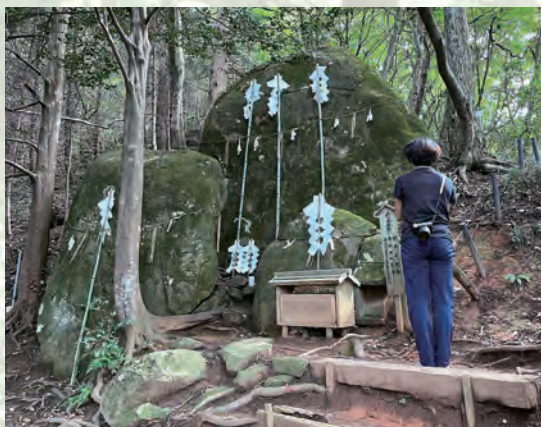
鎮守の杜という、いのちの装置

～プラネタリーヘルスと日本の自然観～

天籟株式会社代表取締役医師
プラネタリーヘルス・イニシアティブ代表理事

桐村里紗

人と自然を切り離さない



岩に神が宿るとされる磐座（須我神社奥宮（鳥取））▲

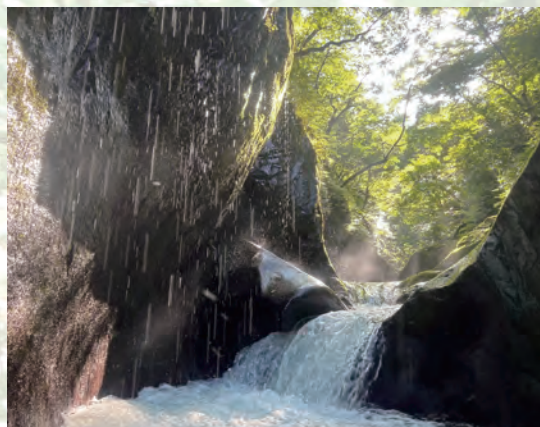
神社を訪れたとき、社殿の奥に、こもりとした森がひっそりと息づいていることに、ふと気づきます。それが、鎮守の杜です。

私たちは近年、神様は社殿に坐すものとして手を合わせています。

しかし古来、日本人が「神の坐す場」と感じてきたのは、むしろその背後に広がる森そのものでした。

社は、神域に祈りを捧げ、人が神と向き合うために設えられた依代であり、後の時代にかたちづけられたものです。古来、自然そのものが、畏敬と祈りの対象であり、信仰の本質でした。

私たちの祖先は、森や山、巨木や岩、湧水といった自然の中に靈性を見出し、



水はすべての生き物の命の根源（大山）▲

畏敬とともに暮らしてきました。日本人にとって、鎮守の杜は「守るべき自然」であると同時に、「生きる知恵の集積」でもありました。神社の裏山を歩くと、しめ縄のかけられた大岩や大木や、湧水地があります。

水は、生きとし生けるものの全てを育むいのちの根源であり、人も水がなければ生きられません。そのいのちの水を育むのが、山であり、大岩であり、大木です。

大きな岩には苔が生え、苔を床に若い木の種が生着します。苔は、微生物と共同作業によって、岩盤をゆつくりと溶かしながら、養分を含んだ水を木の根へと運び、若い木を育てます。そのうち、木がどんどん大きくなり、

根が岩と共に水を蓄えます。岩を抱えた木が大木となり、落ち葉を落とすと、森にはフカフカの土が育ち、土と岩にたっぷりと水が染み込みます。地下に染み込んだ水は、ゆつくりと濾過され、やがて清らかな湧水となつて田や川を潤します。鎮守の杜は、いのちの水を育む、生命循環装置なのです。

神道の自然観は、山を神とする神奈備、岩に神が宿るとする磐座、大木を神籬とする信仰などに象徴されますが、これらは抽象的な信仰ではなく、自然を丁寧な観察し、その働きを暮らしの中に取り入れてきた先人の知恵でした。神社は、鎮守の杜という自然生態系と、人の暮らしや営みという社会生態系を結ぶ「間」の場所として機能してきました。



森町に鎮座する氏神様・八坂神社の鎮守の杜

日本的な自然観

しかし近代化の過程で、多くの鎮守の杜は失われました。鎮守の杜を開発し、全国の小さな神社を統廃合する神社合祀政策に強く反対した博物学者の南方熊楠は、「神林ありての神社なり」と語りました。鎮守の杜なくして神社は成り立たないという、その言葉は、今あらためて重みを増しています。

近年、世界では、生態系の劣化を防ぎ、生物多様性を高めようという国際目標「ネイチャーポジティブ」や人と地球を一体として全体を健康にしようという「プラネタリーヘルス」などの

国際目標が掲げられていますが、そこに通底するのは、人と自然を切り離さず、全体として捉える視座です。今、国際的に求められているのは、日本的な自然観です。

都市に暮らしていると、なかなか、自然とのつながりが感じられない現代ですが、都市にあっても鎮守の杜が残る神社も多くあります。

参拝の折には、ぜひ本殿の奥に広がる鎮守の杜にも足を向けてみてください。静かな森の中には、先人たちが身体で理解してきた、自然と共に生きる

ための叡智が、今も息づいています。その杜は、私たちのすぐそばで、変わらず命を育み続けているのです。



▲命を育む大岩は、人が神と向き合うために設けられた依代でもある（神倉神社(和歌山県新宮)）



▲小國神社を囲む鎮守の杜

プロフィール

医師
天籟株式会社代表取締役
一社)プラネタリーヘルス・イニシアティブ代表理事

桐村 里紗



著書紹介

医師として予防医療から終末期医療まで幅広く臨床経験を積んだのち、人が暮らすことで人と地球が健康になる国際目標である「プラネタリーヘルス」を推進する。著書に、『腸と森の「土」を育てる 微生物が健康にする人と環境』（光文社新書）他多数。主なメディア出演「ホンマでっか!? TV」（腸活評論家）他。

社頭動静

RVパーク滝の宮の開設

◆ご神域の自然と調和した

国内最大級車中泊施設がオープン!!
十二月九日(火)、当社第五駐車場に車中泊専用施設RVパーク滝の宮がオープンいたしました。

本施設は、フードマーケットマムなどを手掛ける、「タカラ・エムシー」(代表取締役 上野 拓)様が運営する、車中泊専用キャンプ施設です。快適さを追求し、電源はもちろんのこと、男女別の手洗いやシャワー設備、洗い場を完備し、二十四時間の入出庫ができます。

また、本施設の魅力の一つとして、朝夕の静寂に包まれたご神域や、四季折々の神社の様子などを身近に感じることができるとも特徴です。



▲オープニングセレモニーの様子



▲子どもたちにも大人気でした

鎮 火祭・消防啓発 キャンペーンの実施

◆小國神社で防災意識向上を

十二月十三日(土)、鎮火祭斎行に併せ、拝殿前にて森町消防団による消防啓発キャンペーンが実施されました。

当日は、消防車の展示や乗車体験、子どもたちを対象とした消防服の試着体験などが行われ、多くの参加者が体験に参加、現役消防団員から直接防災指導を受ける姿などもあり、防災について考える一日となりました。

夕刻の鎮火祭では、森町長太田康雄様を始め、町内全団員が参列し、厳粛に斎行いたしました。

地域の安寧を守る団員の皆様のご活躍と、安全な奉仕活動を心よりお祈り申し上げます。

次 郎柿ワイン 完成奉告祭の斎行

◆長きにわたり愛される特産ワイン!!

十二月十九日(金)、次郎柿ワイン完成奉告祭を斎行いたしました。当日は、次郎柿ワイン推進協議会会長鈴木康之様、森町長太田康雄様、遠鉄ストア代表取締役社長宮田洋様をはじめ、多数のご来賓参列のもと、大神様へ新酒の完成を奉告し感謝を捧げ、ワインが広く知れ渡るようお祈り申し上げました。

森町特産品の次郎柿を使用した本ワインは、本年度誕生から二十六周年を迎え、甘さを控えた爽やかな味が食前酒としても好評を得ています。町を代表する特産品として、今後は販路を拡大していくとのことです。

店頭などで見つけた際は、是非ともお買い求めいただき、楽しんでいただければ幸いです。



▲(右から) 完成のワインの祝 鈴木康之様、太田康雄様、宮田洋様



▲製作者の鈴木三男様

鉄 製干支作品のご奉納

◆新春の大人気フォトスポット!!

十二月二十六日(金)、鈴木三男様より本年の干支にちなんだ「丙午」の鉄製作品をご奉納いただきました。

「丙午」は、行動力や情熱を持ち、活き活きと伸び行く年といわれます。本年の作品はその「丙午」を象徴するような佇まいで、馬が今にも力強く駆け抜けるような躍動感あふれる姿が精巧に表現されています。

ご奉納いただいた作品は新春恒例の縁起の良い撮影スポットとして、多くのご参拝の皆様が記念撮影を楽しまれています。

鈴木様のご厚志に深く感謝を申し上げます。



▲演者の遠江総合高校雅楽部の皆さまと指導担当の牧田先生

遠江総合高校生徒による 雅楽と創作舞楽の奉納演奏！

◆真心こめて練習成果を大神様へ
一月二十六日(日)、舞殿において、遠江総合高校で「伝統・基礎音楽」を学ぶ生徒の皆様により、雅楽と創作舞楽が奉奏されました。

当日は、日々の練習成果を大神様へご奉告し、真心を込めた奏楽と舞を奉納されました。真剣な眼差しで奉納演奏に取り組む姿に、大神様もさぞお喜びになられたことと拝察申し上げます。伝統や文化を大切にした教育は、郷土愛を育み、ひいては国際社会の舞台においても必要な感性を磨くものです。今後も勉学に励み、将来の糧となる素晴らしい高校生活を送られますことを心よりお祈り申し上げます。

御弓始祭の斎行

◆疫病鎮送と五穀豊穡を祈り、矢を放つ
一月十七日(土)、御弓始祭並びに御弓始神事を斎行いたしました。

本祭典は、五穀豊穡や開運招福、さらには災いを除ける疫病鎮送を祈願する神事です。当日は拝殿で祭典の後、内定にて烏帽子と直垂を身にまとった四名の地射手が、日置流大式的作法により神事を執り行いました。

一挙一動が繊細かつ勇壮な所作で、約二十八メートル先の大的を狙って矢を放つと、境内には鋭い矢音が響きました。

放たれた矢は魔除けや開運招福の縁起物と伝わるため、的を射貫いた福矢を求めて多くのご参拝の皆様が手を伸ばし、新春のご神域は活気を見せました。



日置琉の作法に乗っ取り、矢を放ちます▲

厄除大祭の斎行

◆大神様のご加護のもと、健康で充実した人生を祈る

一月二十日(火)から二月三日(火)にかけて、厄除大祭を執り行いました。人生の節目の年にあたる厄年は、健康や仕事など様々な面で転機を迎えると共に、難を招きやすい年頃といわれます。当社では期間中、ご神域を訪れる多くの皆様へ、厄除をはじめ、八方塞がり除・黒星除などのご祈禱をご奉仕いたしました。

当社の厄除大祭は、新春の風物詩として、期間中には静岡放送や静岡朝日テレビ、静岡第一テレビなどで報道され、ご祈禱の様子が広く紹介されました。

ご祈禱を受けられた方からは「今年一年何もなく無事に元気に過ごせれば。」「健康に家族仲良く暮らせればいいかなと思います。」と、心安らかな日々を願う声が聞かれました。

また、ご祈禱をお受けいただいた方には特別に「厄除肌守」を授与したほか、期間限定で「破魔弓矢」をお頒ちいたしました。

今年1年何もなく無事に元気に過ごせればと思って御祈禱しました



白 兎像奉納除幕清祓式

◆ だいこくさまのそばに寄り添う

うさぎの親子

二月一日(日)、(株)トキワシステム代表取締役社長中本智規様より、「白兎像」をご奉納いただきました。

この像は、うさぎ親子の優しい表情が特徴で、参道沿いに奉安いたしました。当日は中本智規様にもご参列いただき、除幕清祓式を執り行いました。

ご祭神大己貴命は、因幡の白兎を助けた心の優しい神さまとして広く親しまれています。

さっそく参拝に訪れる多くの皆様が、親子の白兎像の愛らしい姿に心を和まされていきました。

(株)トキワシステム様のご厚志に深く感謝を申し上げます。



▲(株)トキワシステムの中本社長(中央)

紀 元祭の斎行

◆ 世界最古のご皇室を戴く、我が国の

麗しい国柄を次代へ継承する

二月十一日(水)、森町長太田康雄様、衆議院議員山本裕三様、静岡県議会議員伊藤和子様、森町議会議長中根信一郎様を始めとした六十九名ご参列のもと、紀元祭を斎行いたしました。

当日はあいにくの雨天のため奉祝パレードと記念式典は中止となりましたが、甘酒の無料授与や、餅つきを実施しました。

本年は、初代神武天皇が即位されてから二六八六年の佳節を迎えます。世界最古のご皇室を戴き、その起原を神代にまで遡ることができる日本は、類まれなる国家です。

安定的な皇位継承の在り方として旧宮家からの養子案の法制化が望まれます。神武天皇より、一貫して男系で継承されてきた皇統の重みと共に歩んできた国柄を、皆で大切にしていきたいものです。



▲ 昼前には雨も上がり、餅つきには多くの方が並びました

祈 年祭の斎行

◆ 日本人の原点を伝える

「としごいのまつり」

二月十八日(水)、祈年祭を斎行いたしました。

本年は、森町長太田康雄様、衆議院議員山本裕三様(秘書様代理参列)、静岡県議会議員伊藤和子様、同じく静岡県議会議員伊藤謙一様、森町議会副議長岡戸章夫様をはじめ、八十九名の皆様にご参列いただきました。

祈年祭は「としごいのまつり」とも呼ばれ、春の初めに五穀の豊かな実りと国家の安泰、諸産業の繁栄を祈願いたします。「とし」は稲の魂、「ごい」は祈りを意味します。神さまが運ぶ自然の恵みに感謝し、豊作を祈る姿勢は、我が国の麗しい精神文化であり日本人の原点といえます。

また、本年も松尾貞子様より大根やキャベツなどの農産物を多数ご奉納いただき、ご神前にお供えいたしました。松尾様のご厚志に深く感謝を申し上げます。



▲ 玉串奉奠

初 甲子祭の斎行

◆ ご祭神と縁深い吉日に、ご加護を願う

二月十九日(木)、初甲子祭を斎行いたしました。

初甲子祭は、寒明け最初の甲子の日に行う祭典です。甲子の日は、ご祭神の大己貴命が国造りを始められたご縁日で、古来新しい物事を始めるのに最適な日と伝えられます。

祭典では、年に一度だけ一般の皆様が御垣内へ入り、ご本殿の周りを巡る本殿廻り神事を行いました。本殿階下に設えただいこく様の宝器である打出の小槌を手に取り、日々の感謝とご加護を願う多くの方々が賑わいました。

また、この日は特別に神杉の葉から奉製した御幣「無事杉」をお頒ちいたしました。

皆様の益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。



▲ 本殿を間近に仰ぎ、願いを込め打出の小槌を振りまします

興 静会新春書き初め展の開催

◆書道を通じた文化興隆と

次世代の育成

二月二十三日(月)、興静会新春書き初め展の審査会を行いました。当日は書家の杭迫柏樹様をお迎えし、三七七点の応募作品を審査いたしました。

本展は、書道を通じた郷土の文化興隆と青少年の育成を目的としています。日頃の熱心な稽古の成果が窺える、堂々とした素晴らしい作品が数多く寄せられ、いずれも甲乙つけがたいものでしたが、各学年の入賞作品を無事に決定いたしました。

三月八日(日)には、拝殿にて杭迫柏樹様ご出席のもと表彰式を行うとともに、同日より三月二十二日(日)まで研修室にて入賞作品の展示を行いました。次代を担う若者たちの力作を、多くの皆様にご覧いただきました。



個性が光る作品の中 ▲
審議は慎重に行われました



▲表彰式の様子



▲展覧会の様子



▲約150名の皆様にご参列いただきました

神 社本庁嘱託 チャート・出意人氏のご参拝

◆英国出身の神道研究者

二月二十三日(月)、神社本庁嘱託のチャート・出意人様(チャート・出意人様)がご参拝され、今上陛下の大御代を祝う天長祭にご参列されました。

チャート様は英国でお生まれになり、平成十五年に初来日されました。平成二十六年に神社検定一級に合格、平成二十八年に日本国籍を取得され、平成三十年からは神社本庁の嘱託として勤務されています。

現在は英語で神道を紹介する活動「Minusubi」を展開し、英語でのエッセイ出版や、外国人向けに神社の作法を解説する講師なども務められ、神道文化のグローバルな発信と諸外国との相互理解に大きく貢献されています。チャート様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



▲静かに祈りを捧げるチャート様

春 春季皇霊祭遙拝式の斎行

◆ご皇室の弥栄と国の安寧を祈る春の神事

三月二十日(金)、春季皇霊祭遙拝式を斎行いたしました。

現在、この日は「春分の日」として国民の休日となっていますが、戦前は「春季皇霊祭」という名称の祭日として広く親しまれていました。戦後の祝日法制定により名称や趣旨が変わり、その本旨を知る人は少ないかもしれません。

宮中では歴代の天皇や皇后、皇親の御神霊をお祀りする祖霊祭として春季皇霊祭が斎行されます。当社におきまして、この祭典に合わせて拝殿東側に祭壇を設け、皇居内の皇霊殿の方向に向いて遙拝をいたしました。

ご皇室を戴く我が国の国柄に思いを致す意義深い一日です。



宮司以下祭員が ▲
皇霊殿に向かい遙拝します



▲年明け直前の拝殿前
新年を楽しみにされる参拝者で
賑わっていました（12月31日）



▲歳旦祭 宮司祝詞奏上（1月1日）



▲氏子内外の学生助勤者も多数ご奉仕
いただきました（1月1日）



▲人気のだるまが並びます（1月1日）



▲新年の人気撮影スポット（1月2日）

令和八年 新春 点描

令和8年の新春の諸儀式は
お陰をもちまして
滞りなく斎行することができました。
天候に恵まれ、多くの皆様がご参拝になり、
賑わいの新春となりました。
新春点描では、祭事・行事を中心に
ご神域の様子などをお伝えいたします。
それぞれの表情などにも注目して
ご覧いただければ幸いです。



▲追儺祭
柳の若で拝殿の長押を叩き、厄を祓います
（1月2日）



▲本年は新春から静岡木工さまによる
神棚・神具の展示販売ブースも設け
られました（1月2日）



▲どんど焼き
どんど焼きの火で焼いたお餅を食べると
健康に1年間過ごせると言われています
（1月18日）



▲御弓始祭
勇壮な所作で弓を射ます（1月17日）



▲八王子社例祭 御弓始式
宮司の放った矢が、
見事的中しました（1月17日）



▲岐阜護國神社宮司・杉本純一様の
新春参拝（3月11日）

神々とお祭り

私たちの祖先は、かみまつ神祭りのなかから生き方を学び信仰の礎としてきました。

また、古くからの伝承や歴史をふまえ、豊かに暮らす知恵を生活のなかに生かし、神々と生活をともにしてきました。

毎年同じ時期にお祭りが繰り返し行なわれ、私たちはその中で信仰や文化をかたちづくってきました。

「お祭り」とは、

日本の伝統にもとづいて、神々に対する祖先のこころを今に伝える大切なかたちです。



小國神社氏子青年会の

ご紹介と新規会員募集

小國神社氏子青年会とは

小國神社氏子青年会は、神社の発展と、国指定重要無形民俗文化財である「古式十二段舞楽」の保存に協力し、地域の繁栄に寄与することを目的に活動しています。

神事に携わり、同じ志を持つ仲間とともに神様へのご奉仕をすることは、親睦を深めるだけでなく、郷土の豊かな歴史や伝統を肌で感じる事ができる大変貴重な経験となります。

主なご奉仕・活動内容

- 年末年始…注連縄（しめなわ）の奉製、正月のだるま授与、どんど焼き
- 二月…紀元祭での建国記念パレード・餅つき
- 四月…例祭における舞楽奉仕 など



一 会員募集のご案内

現在、当会では共に活動してくださる新しい仲間を募集しております。

氏子地域にお住まいの方に限らず、会の趣旨にご賛同いただける方であれば、お住まいの地域や男女を問わず、どなたでもご入会いただけます。

地域の伝統を守りながら、新しい繋がりを育んでみませんか。皆様の温かいご参加を、心よりお待ちしております。

※入会のお申し込みやご質問につきましては、

小國神社氏子青年会事務局
電話番号…〇五三八―八九―

七三〇二

までお気軽にお問い合わせください。



新しいお守りのご案内

この度、当社では大神様のご加護を身近にいただく新しいお守りを奉製いたしました。

強運守

力強い運を引き寄せるよう祈りを込めた「強運守」です。古来より飛躍の年とされる本年の丙午（ひのえうま）にあわせ、落ち着いた紫色の生地に金色の文字があらわれた、気品あるデザインとなっています。

諸芸上達守

日展名誉特別会員、杭迫柏樹先生揮毫による、習い事や芸事の向上を祈る「諸芸上達守」の意匠を新たにいたしました。白色の生地に青と金色の刺繍が施され、清々しく爽やかな色合いに仕上がっています。ご神前において日々の修練の成果をご奉告し、今後のさらなる発展をお祈りください。お守りは授与所にてお頒ちしています。



5/9 新緑ライトアップ 特別イベントのご案内

明神通り振興会の主催により、四月二十五日(土)から八月三十一日(月)までの期間、新緑に包まれた宮川沿いのライトアップを実施いたします。午後四時から午後八時まで点灯し、昼間とはまた違った趣のあるご神域の姿をお楽しみいただけます。

また、期間中の五月九日(土)には、特別イベントを開催いたします。当日は先着二百名様へオリジナル提灯のプレゼントや、お子様が無料で遊べるふわふわのエア遊具もございます。さらに駐車場

には十一店舗の人気キッチンカーが出店し、賑やかな雰囲気なかで多彩な食をお楽しみいただけます。

提灯を片手に、ライトアップされた新緑の中をゆっくりと歩くひとときは、格別な思い出となることと存じます。大人からお子様まで、心安らぐ時間をお過ごしいただければ幸いです。ぜひともご参拝ください。

新緑ライトアップ期間／

四月二十五日(土)から八月三十一日(月)

点灯時間／午後四時から午後八時まで

場所／宮川沿い

主催／小國神社明神通り振興会



【連絡先】
小國神社
明神通り振興会



特別イベント

5月9日(土) 16:00～20:00(雨天中止)

先着200名
提灯で小國神社を歩こう!

オリジナル提灯
プレゼント

幻想的な
灯りがキレイ



キッチンカー
11台出店予定

(場所:小國神社駐車場)



ふわふわ楽しい

エア遊具

(場所:小國神社境内)

※イラストはイメージです

災難除守とは

小國神社のご祭神大己貴命が根堅州国で、須佐之男命から与えられた試練の中の、『へびのむろ・はちのむろ』の故事(古事記に記載)に由来するお守りです。

その逸話の中に、「須勢理毘賣命より授かった比禮(御布)を三度振ったところ、へびや、はちからの災難を逃れ、その試練を乗り越えた末に大己貴命と須勢理毘賣命が契りを交わした。」という故事があります。

この故事にちなみ、比禮(御布)を使い、現在も結婚式などで使われる伝統的な帯結び『立て矢結び』を参考に、災難除のお守りとして奉製いたしました。

身につけていただくことはもちろん、玄関やデスクなどにも置くことができる「置き守り」です。皆様の健やかな日々を応援するお守りとして心を込めて奉製しています。(県内で特別奉製)

お守りは授与所にて頒布しておりますので、大皆様のご加護をお受けいただければ幸いです。



初穂料：各2,000円



カバン等につけても
華やかなお守りです

夏越大祓式・茅の輪くぐり神事のご案内

清々しく、残りの半年を過ごせるように祈りを込めて

大祓式 全員参加型のお祓い神事

大祓式は、日常生活で知らず知らずのうちに積もった罪や穢れを祓い清め、身も心も清らかに次の半年間を過ごすための神事です。

大祓式は年に二度行われ、六月の大祓は「夏越大祓式」、十二月の大祓は「師走大祓式」と呼ばれます。特に夏越大祓は、「水無月の夏越の祓する人は千歳の命のぶというなり」ともいわれ、無病息災を祈るための茅の輪くぐりが行われます。



日時

六月三十日 午後三時より（引き続き、「茅の輪くぐり神事」をおこないます）

場所

小國神社 社務所前庭

茅の輪くぐり神事

大きな茅の輪をくぐることで、災厄を取り除き、無病息災を祈願します。

人形（ひとがた）によるお祓い

身代わりとなる人形に罪や穢れを託し、これを川や海に流して清めます。

参列方法

どなたでもご参列いただけますので、当日時間までにお越しください。

大祓神札をご希望の方は授与所にて人形の授与をしていますので、事前にお申し込みの上、前日までに持参下さい（初穂料：二、〇〇〇円よりご志納）

茅の輪守り

「茅の輪守り」を期間限定授与しております（初穂料：一、〇〇〇円）。五月下旬より授与開始。なくなり次第頒布終了。皆さまのご参拝を心よりお待ちしております。



▲茅の輪守り 初穂料：1,000円

ザフォレスト カントリークラブのご紹介

地域に根差したゴルフ場

明神通り沿いの豊かな自然に囲まれたザ・フォレストカントリークラブ様は、昭和四十九年にオープンした、川島グループのゴルフ場です。十一年連続でグループ内の来場者数一位を記録し、地元のリピーター客を中心に広く愛されています。

来場者を魅了するのが、丹精込めて手入れされた二十七ホールにもわたる、広大で緑豊かなコースです。生き物である芝を最良の状態に保つのは天候との闘いとなる中、スタッフの方々が早朝から入念な手入れを行い、美しい景観を保ち続けています。また、直営レストランでの手作り料理も大きな魅力です。昭和六十二年の再オープン時から勤める元洋食コックの大森社長がこだわりの料理は、ゴルフプレーヤーだけでなく、食事目的の地元の方々にも親しまれています。

ゴルフ好きの方はもちろん、ご参拝の折にランチを楽しみたい方も、ぜひ足を運んでみてください。



美しく整えられたクラブハウスで
笑顔のスタッフが
お迎えしてくれます

古代の森 小國神社 第24回 写真コンテスト

【応募サイズ】 ● 一般の部…カラープリント
ワイド4ツ切/4ツ切

● 学生の部…カラープリント
ワイド4ツ切/4ツ切/A4

【募集要項】 ● 一般の部…全年齢可

● 学生の部…学生のみ（応募用紙に学校名を記載してください）

【応募期間】 ● 令和8年6月1日～7月10日必着

【応募の決まり】 ● 過度なデジタル加工（合成）は選考外となります。

● 展示などの都合によりフチなしの作品に限りません。

● 野鳥作品は題名の後に鳥の名前をご記入ください。

【応募上の注意】 ● 応募作品の返却は致しません。

● 特定の人物が被写体の場合は本人の承諾を得てから応募してください。

● 公表の承諾に関する問題は、主催者は一切の責任を負いません。

● 撮影上の注意 ● 参加者や自然鑑賞の方に迷惑にならないようにしてください。

● 自然の樹木等の損傷をしないでください。

● 祭典（神事等）の妨げにならないようにしてください。

【審査】 ● 古代の森小國神社

● 写真コンテスト実行委員会

● 富士フィルム推薦フォトアドバイザー

● 令和8年8月下旬

● 入賞者に直接通知いたします。

● 令和8年9月下旬（入場無料）

● 小國神社 参拝者休憩所2階 研修室

● 募集規定 ● 応募作品は、令和7年7月上旬から翌年6月

● 下旬までに撮影したものに限りません。

● 作品の裏面に応募票（自作可）を必ず貼付してください。

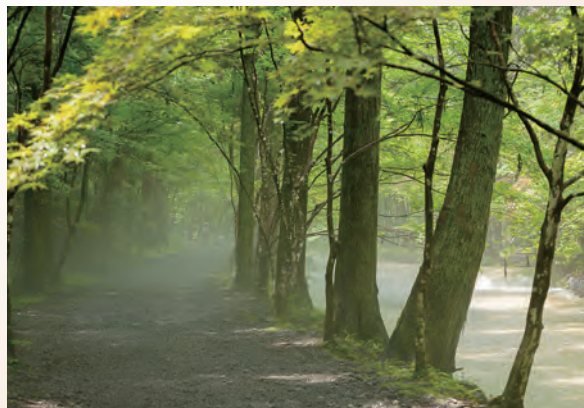
● 応募作品の版権及び使用権は主催者に帰属し、データを提出していただきます。

● 応募作品は当社広報活動などのためにポスター・チラシ・作品集・ホームページに使用場合があります。ご了承ください。

● 「写真コンテスト応募用紙」は、社頭及び静岡県写真材料商組合に加盟しているカメラ店でも配布を行います。

第23回 最優秀賞

「霧に包まれる青紅葉の宮川」 深井陽子



前回受賞者の皆さま

一般の部	最優秀賞／深井陽子
一般の部	優秀賞／中沢力男
一般の部	優秀賞／岩本雅志
一般の部	優秀賞／山内清孝
一般の部	特別賞／相羽強
学生の部	最優秀賞／小粥暁斗
学生の部	優秀賞／大石悠貴

【応募先】

〒437-0102 小國神社「古代の森小國神社」宛

静岡県周知郡森町一宮三九五六一

電話 〇五三八八八九七三〇二

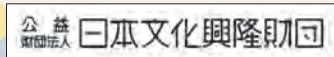
神社検定 第十四回 神社検定受検のススメ

神社検定（神道文化検定）は神社が好き
な方、日本文化をもっと知りたい方のため
の検定です。『神社本庁公認』の本検定は、
より多くの方々に神社についての正しい知
識を学んでいただき、「日本のこころ」を
再発見していただくため神社本庁監修のも
と始まり、今年で十四回目となります。

神道は、日本文化の源です。蘊蓄（うん
ちく）を語りたい方も、ガイドに活用した
い方も、生涯学習のテーマにしたい方も、
神社検定に挑戦することでもいつもお参りし
ていた神社の新しい姿が見えてくるはずで
す。検定を通じて神道文化への理解を深め、
日本文化の魅力を次世代へとつないでいく
ため、ぜひこの機会に検定試験を受けてみ
ませんか。



● 各リンクもぜひ御覧ください ●



試験日時：令和8年6月28日(日)
試験会場：小國神社休憩所二階 研修室
申込期限：令和8年5月28日(木)

受験級と受験方法

初級：オンライン受験のみ
参級：オンライン受験・会場受験
式級：オンライン受験・会場受験
※第14回より式級もオンラインで受験できるようになりました。
壹級：会場受験のみ

これからの 行事

～7月



宮代神饌田 御田植祭(5月31日)



端午祭



5月5日午前11時より斎行いたします。

菖蒲の節句とも言われ、お子様の健やかな成長を祈るお祭りです。祭典後は邪気を祓う菖蒲とよもぎの葉を授与いたします。



勸学祭

4月4日午前11時から斎行いたします。

「勸学」とは「学問を奨励する」という意味で、新しく小中学校に入学する子どもがよく学び、事故や病気などに遭わず心身健全に成長することを祈願します。



毎月1日・18日午前10時より

月次祭

毎月1日と18日の午前10時から執り行います。

月次祭では、神様に日々の感謝を捧げ、国家国民の安泰と繁栄を祈ります。ご参列はどなたでも可能です。当日、社務所受付でお申し出ください。

5月

皐月

- 1日 月次祭 (午前10時)
- 1日 一宮祖霊社月次祭 (午前11時)
- 5日 端午祭 (午前11時)
- 6日 本宮山青葉祭 (午前11時)
- 18日 月次祭 (午前10時)
- 31日 宮代神饌田御田植祭 (午前11時)
- 下旬 一宮花しょうぶ園開園

6月

水無月

- 1日 月次祭 (午前10時)
- 1日 花菖蒲園開園奉告祭 (午前10時)
- 1日 一宮祖霊社月次祭 (午前11時)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 18日 月次祭 (午前10時)
- 19日 甲子祭 (午前10時)
- 21日 御田植祭 (午前10時)
- 30日 夏越大祓式 (午後 3時)

7月

文月

- 1日 月次祭 (午前10時)
- 1日 一宮祖霊社月次祭 (午前11時)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 18日 月次祭 (午前10時)
- 31日 愛宕神社例祭 (午前10時)



小國神社の 祭典・

4月～

令和8年6月30日(火)午後3時より

夏越大祓式

6月30日午後3時より斎行いたします。
半年に一度、日常生活の中で犯した罪や過ち、心身の穢れを人形に託して川や海に流し、祓い清める神事です。引続き茅の輪くぐり神事を行い、無病息災を祈ります。どなたでもご参列できます。半年の罪穢れを祓い、身も心も清々しい気持ちで新たな季節をお迎えください。

小國神社 おおはらえのことば

検索

スペシャルムービー

～古の祝詞 大祓詞への誘い～

4月

うづき
卯月

- | | | |
|-----|----------------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 1日 | 一宮祖霊社月次祭 | (午前11時) |
| 3日 | 神武天皇祭遙拝式 | (午前10時) |
| 4日 | 勸学祭 | (午前11時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 8日 | 杉祭 | (午前10時) |
| 8日 | 全国一宮等合殿社例祭 | (午前10時30分) |
| 16日 | 献茶祭(茶商組合) | (午前 9時30分) |
| 16日 | 垢籬祭 | (午前11時) |
| 16日 | 舞揃 | (午後 2時) |
| 17日 | 献詠祭 | (午前10時) |
| 17日 | 前日祭 | (午前11時) |
| 18日 | 例祭 | (午前10時) |
| 18日 | 古式十二段舞楽試奏 | (午後 1時30分) |
| 19日 | 氏子入り奉告祭 | (午前 9時) |
| 19日 | 古式十二段舞楽奉奏 | (午前10時50分) |
| 19日 | 神幸祭・神子舞奉奏・勅使行列 | (午後 2時) |
| 19日 | 献茶祭(手揉み保存会) | (午後 4時) |
| 20日 | 甲子祭 | (午前10時) |
| 29日 | 昭和祭 | (午前10時) |



一宮祖霊社 月次祭

毎月1日に御霊の平安をお祈りしています。奉斎会入会のご案内、永代祭祀、神葬祭については公式HPをご覧ください。

神葬祭と祖霊祭HP



本宮山青葉祭

5月6日午前11時より斎行いたします。

本宮山の新緑が鮮やかで美しい季節です。どなたでもご参列できます。是非、ご登拝され大神様のご加護をお受けください。



勸学祭・氏子入り奉告祭のご案内

新 たな季節、新しいスタートを
神さまと共に

本年の勸学祭は、四月四日(土)十一時より斎行いたしました。氏子地域の小中学校へ入学する方でしたらどなたでも参列できます。ご神前にて学業成就、身体健全、交通安全をお祈りします。

氏子入り奉告祭は、四月十九日(日)午前九時より執り行います。令和七年一月一日から令和七年十二月三十一日までに氏子地域で出生されたお子様、嫁入り、婿入りされた方や移住された皆さまならどなたでもご参列いただけます。ご神前にて家内安全、無病息災のお祈りをいたします。

お申込みは各地区の総代を通して行います。是非、ご参列下さい。



献詠祭く古より伝わる日本人の心く

皆 様の和歌・短歌をご神前へ

献詠祭では、有志の皆様より和歌の奉納を賜り、ご神前へと献じています。和歌の歴史は神代に遡り、素戔鳴尊が妻のために詠まれた「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠に 八重垣作る その八重垣を」という歌が始まりとされています。

平安時代には、宮中で和歌を通じて感情を伝え合う文化が広まりました。また『万葉集』には、様々な身分の和歌を詠んだ記録が残っています。

言葉には魂が宿ると古来より信じられ、和歌は身分を超えて多くの日本人に受け継がれてきました。

多くの献歌をお待ちしています。

● 募集要項 ●

- 兼題 「お米」・「青」
- 形式 短歌 (5・7・5・7・7調)
- 用紙 短冊用紙 (縦36cm×横7cmが目安となります)
(裏面に住所・氏名を明記の上、歌は楷書でお詠みください。)
- 締切り 4月末日
- お申込宛先・問合せ先
〒437-0226
静岡県周智郡森町一宮3956-1
「小国神社祭務部祭儀課献詠係」
TEL (0538) 89-7302

シラチャ小国神社創建プロジェクト ドキュメンタリームービーのご紹介



この度、(株)静岡木工様が、タイ王国に鎮座するシラチャ小国神社の創建に密着したドキュメンタリー動画をYouTubeにて公開されました。海を渡った新しい神社が形作られる裏側をご覧ください。

(株)静岡木工は、シラチャ小国神社のご鎮座に深く携わり、社殿の設計から製作・境内プロデュースを担われました。本作品では、日本大工の繊細な感性や、創建に携わる様々な方々の思い、さらには現地の方々がシラチャ小国神社に寄せる期待や思いなどが記録されています。

一三〇〇年もの長きにわたり受け継がれた宮大工の伝統技法と、多くの方々の温かい思いが結集し、海を越えた地で形となるまでの貴重な歩みを、そして日泰両国の友好親善を象徴する神社創建の軌跡を、ぜひ動画でご視聴ください。



YouTube
ドキュメンタリー動画



新生児選名・命名について

生を受け、生を伝える 「人の一生」

様々な節目を迎えるとき、神さまへ「感謝」と「ご奉告」を行うことは、古来より受け継がれた日本の文化です。

当社では、日本の伝統文化に則した新生児にふさわしい名前を選名いたします。

また、ご家族で考えられたお名前候補の中から、ご相談の上、選名いたします。

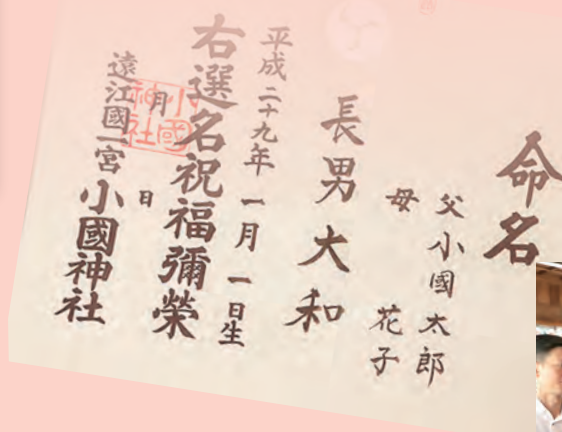
お名前が決定の後、お子様の無事成長と一生の幸せをご神前で祈りし、お神札、朱印を押印した命名書を授与しております。

初穂料 一〇、〇〇〇円也

命名

令和七年十二月一日、
令和八年二月二十八日

横山 旺輝 森町	平川 果凜 静岡市	石塚 凰凌 浜松市
安藤 功晟 愛知県	鈴木 珀耶 浜松市	門奈 佐季 浜松市
斉藤未弦季 森町	二俣 颯太 岐阜県	木下 葵生 磐田市



お申し込み方法など詳しくは、小國神社 選名・命名奉告で検索

小國神社 選名・命名奉告

検索

当社で命名奉告をされた皆様には
5月5日の端午祭へご案内いたします▶

神社を知れば日本がわかる “まつりの国、日本”



イラスト:小國神社ものがたり
作:たたら なおき

祝詞(のりと)

祝詞は「のりと」と読み、神様に感謝や祈りを伝えるための言葉です。

神代が起源とされ、『古事記』・『日本書紀』に伝わる天の岩屋戸神話で、天児屋命が申した「フトノリトゴト」がその由来とされています。

祝詞は大きくふたつの形式を以て構成されており、祭りの場に参集した人々に対して宣読する宣命体と神に対して奏上する奏上体とに分けられます。

その内容は、祭りの由来を述べ神徳を称え、お供えをして祈願を述べることで、その言葉は善言美辞を尽くしたものです。

日本では古くより、言葉には霊力が宿りその言葉を唱えることで霊力を発揮するという言霊の信仰があります。人間関係の構築や物事を表現する手段として日々大きな役割を果たしている言葉は、文化的にも私たちの生活に深く関わっているといえるでしょう。

小國神社公式・神棚の里ECサイトのご案内

ご家庭に神棚・神具を
感謝と祈りの暮らしをお届けします

「小國神社公式 神棚の里ECサイト」では、伝統的な神棚から現代の住空間に調和するモダンなデザインまで、幅広いラインナップで取り揃えています。和室・洋室を問わずどんな空間にも自然に馴染む洗練されたデザインが特徴で、新築や開店、人生の節目にふさわしい神棚セットや盛り塩、しめ縄、縁起物なども豊富にご用意しています。

また、古くなった神棚を丁寧にお祓いし、焼納するサービスも承っております。遠方にお住まいの方でもご自宅から簡単にご利用いただけますので、詳しくは左記のQRコードからご確認ください。

「ご家庭に「感謝」と「祈り」
の場を整える機会に、ぜひご活用ください。



小國神社公式
神棚の里
ECサイト



公式HP・SNSのご紹介

小國神社
公式Webサイト
(Domestic)



小國神社
公式Webサイト
(Overseas)



小國神社
公式Instagram



◆ 辞令交付 ◆

権禰宜 小間澤雅子
願により職を免ずる
賀茂別雷神社へ転任

(令和八年三月二十日付)
(京都府)

巫女 大石 知加
願により職を免ずる

(令和八年三月二十日付)

渥美 智尋

巫女見習いを命ずる

(令和八年二月二十五日付)

浜田 梨瑚

巫女見習いを命ずる

(令和八年三月二十一日付)

丹田 橙醒

巫女見習いを命ずる

(令和八年三月二十一日付)

新体制のもと、職員一同、
神慮を畏み、宮司を輔け、
祭祀の厳修とご神徳の発揚
に精励致す所存です。
今後とも倍旧のご指導ご
鞭撻を賜りますようお願い
申し上げます。

編集後記

玉垂七十四号をお届けします。

ご神域に吹く風も和らぎ、まもなく
瑞々しい新芽が芽吹く新茶の季節を迎
えます。現在、海外を中心とした抹茶
ブームにより、お茶の輸出が盛んにな
り茶業は活況を見せる一方で、需要が
抹茶に集中し、煎茶の生産量が減少の
一途をたどっています。茶農家の人手
不足も重なり、日本人の生活に寄り
添ってきた煎茶の生産が圧迫される現
状に、一抹の寂しさを覚えます。

当社では、毎月の月次祭や四月の献
茶祭などを通して、神様に煎茶を奉納
しています。氏子地域である森町の茶
農家が丹精込めて育てた煎茶は、この
地が誇る大地の豊かな恵みそのもので
す。日々お茶作りに励む生産者の方々
が感謝を込め、煎茶を御神前へお供え
し、その伝統と真心を変わらず守り伝
えていくことも肝要であると存じま
す。

世界に羽ばたく抹茶の活況ととも
に、地域に深く根付いた煎茶の魅力も
再認識され、皆様心安らぐお茶の時
間を十分に楽しめる環境が末永く続く
ことを願ってやみません。



イラスト…
小國神社明神通り
縁結び公式キャラクター
「ごち君」「ごち姫」